

英語科教育法 I (第9講)

読むことの指導



目次

- ▶ 様々な指導法
- ▶ 速読と精読
- ▶ 伝統的な訳読法
- ▶ 必要な文法力
- ▶ 語彙知識の理解
- ▶ 実践的なリーディング力の付け方



速読と文法理解

- ▶ **速読練習**：生徒には適切な速さで読むスキルも必要である。速読練習を通じて、理解度を保ちながらも効率的な読書ができるようにトレーニングする。高校生ならば、topic sentence 等の理解も必要である。
- ▶ **文法理解**：文法の理解は読解力向上に不可欠である。文法の基本から始め、文章の構造や文脈を理解する手助けとなる。
- ▶ なお、速読練習ならば、トップダウン、文法理解ならばボトムアップという方向性になるので、両者を補いながら行うとよい。



プレ-リーディング活動

- ▶ **ディスカッションとフィードバック**： 読んだ内容に関するディスカッションを通じて、生徒に読解力を発展させる機会を提供する。フィードバックを通じて誤解や誤読を正すことが重要である。
- ▶ **：** 生徒が新しいテキストに取り組む前に、タイトルや見出しを見て予測を立てる、キーワードを考えるなどのプレ-リーディング活動を導入すると、理解が深まる。
- ▶ **自主学習の促進**： 生徒には自分で興味を持った読み物を見つけ、読む習慣をつけるよう促す。自主学習を通じて、自分のペースで英語の読解力を向上させることができる。



伝統的な訳読法

- ▶ 精読と速読の違い
- ▶ 精読と速読を併用することが望ましい。
- ▶ 精読は伝統的な訳読法と結びつくが、ある程度のスピード感で速読することは大量のデータを活用しようとするためには、必要なことである。



文法訳読法の意味は何か

- ▶ 文法訳読法（Grammar-Translation Method）は、言語を学習するための伝統的な教授法の一つである。主に19世紀から20世紀初頭にかけて、古典的な言語（ラテン語やギリシャ語など）を学ぶために使用されたが、その後も外国語教授の1つとして用いられている。
- ▶ 文法の重視: この教授法では、まず文法の規則や構造を詳細に学ぶ。文法の理解が言語学習の基盤と考えられている。
- ▶ 語彙の学習: 文法と同様に、重要なのが語彙の学習である。単語やフレーズを覚え、辞書的な知識を積み重ねることが重要視される。
- ▶ 翻訳練習: 生徒たちは、母語から学習対象の言語への翻訳練習を通じて、文法と語彙の理解を深める。文や文章を翻訳することによって、文法規則や語彙を実際のコミュニケーションに結びつけようとする。



文法訳読法の問題点

- ▶ 対話の不足: この教授法は、主に読解や文法の理解に焦点を当てており、実際の対話やコミュニケーションのスキルは強調されない。そのため、口頭表現力が不足することがある。
- ▶ 非自然な順序: 文法訳読法では、言語学習の進行が自然なコミュニケーションの発達とは異なる。この方法では、最初に文法を学び、その後に実際の会話やコミュニケーション能力を向上させる手段に取り組むという順序となる。
- ▶ この教授法は、一部の学習者（とりわけ、学問的な研究を志す人）には有効であるとされている。現代の言語学習理論では、対話重視やコミュニケーションスキルの向上に焦点を当てる方法が一般的である。
- ▶ 英語教育の大衆化、一般化にともない文法訳読法からコミュニケーション重視の方法に移行している。



語彙知識の3つの次元

- ▶ 語彙力はどのように定義されるか。
- ▶ (1) 広さ(breadth) : 語彙サイズであり、どれくらい多くの単語を知っているか。
- ▶ (2) 深さ(depth) : 一つの語をどれだけより深く知っているか。発音、綴り、語形成、意味、概念、連想、文法、コロケーション、使用の制約
- ▶ (3) 流暢さ(fluency) : 単語を認知したり、発したりするときの速度に関する。



指導すべき語彙の選定

- ▶ 学習指導要領で示してある語彙数。
- ▶ 小学校600~700語
- ▶ 中学校1600~1800語
- ▶ 高校 1800~2500語

- ▶ 大学受験に必要な語彙数はどれくらいか。難関大学では、6000語~7000語
- ▶ 語彙リスト 大学英語教育学会の基本語リスト（新JACET8000）



単語帳や語彙リストの作成

- ▶ **学習者に対して単語帳の作成を奨励するとよい。**
- ▶ **単語帳や語彙リストを作成することである：** 重要な単語や表現をまとめて、自分専用の単語帳や語彙リストを作成することで、学習が定着しやすくなる。
- ▶ **テーマ別に学習することである：** トピックごとに関連する単語や表現をまとめて学ぶことで、特定のシチュエーションで使える語彙が増える。
- ▶ **読書を通じて新しい単語を学ぶことである：** 小説、記事、ブログなどを読むことで、文脈に応じた単語の使用法や表現を学ぶことができる。



単語や表現を実践的に使うこと

- ▶ **英語の映画や音楽を活用することである**：ネイティブスピーカーの自然な表現を学ぶために、映画や音楽を通じてリアルな英語を聞き取り、覚えることができる。
- ▶ **意見や情報交換を目標言語で行うことである**：ネイティブスピーカーとの言語交換を通じて、日常的な表現や俗語など、教科書では学びにくい実用的な言葉を覚えることができる。教員側としては、メールなどを通して、外国人と実際に文通ができる機会を作ることである。
- ▶ **頻繁に使う単語や表現を実践的に使うことである**：学んだ単語や表現を実際のコミュニケーションや文章で使うことで、定着しやすくなる。どのように機会を見つけるかは、学習者自身に任せておいては難しいので、相手を教員側が探してあげることが必要である。



文法を知ることには必要か。

- ▶ 明治期の人々は、西洋の言語に文法があることを知って、日本語に果たして文法というものがあるのかどうか心配をした。
- ▶ ある西洋人の話のだが、学校で文法というものを学んで、はじめて動詞には、規則動詞と不規則動詞があることを知った。あまりにも当然なので、動詞をそのように区分けすることには考えも及ばなかった。このように普段は文法をまったく意識しないでも、コミュニケーションを図ることは行える。
- ▶ 文法を知らなくても、私たちは日本語を話している。自覚してなくても、我々は日本語の文法を知っている。
- ▶ 英語の場合でも、同じような過程で、文法を知らないで英語を理解することはできるだろうか。この点で、母語話者とは異なってくる。



学習指導要領で取り上げている「文法事項」

- ▶ 小学校：文、文構造
- ▶ 中学校：文、文構造、代名詞、接続詞、助動詞、前置詞、動詞の時制、形容詞及び副詞の比較変化、to不定詞、動名詞、現在分詞と過去分詞の形容詞としての用法、受け身、仮定法のなかで基本的なもの
- ▶ 高等学校：不定詞、関係代名詞、関係副詞、接続詞、助動詞、前置詞、動詞の時制、仮定法



様々な方法で読む力を付ける。

- ▶ **バラエティ豊かな読み物の提供**：異なるジャンルや難易度の英語の読み物を提供し、生徒が興味を持てるようなトピックを選ぶ。新聞記事、小説、ブログ、科学論文など、様々な形式のテキストを取り入れることが望ましい。
- ▶ **アクティブリーディング**：生徒には受動的な読み取りだけでなく、アクティブに読むスキルを身につけさせることが重要である。質問を立てさせる、要約させる、主題や主張を特定させるなどの活動を通じて、深い理解を促進する。
- ▶ **語彙の強化**：生徒が理解できない単語やフレーズがある場合、その都度説明をし、新しい語彙を覚える機会を提供する。単語の意味だけでなく、文脈での使い方も重視する。



課題

- ▶ 速読と精読はどのように活用したらいいのか。
- ▶ 語彙をどのように覚えたらいいのか。
- ▶ 文法を理解することはリーディングにどのように役立つか。

